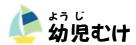
なつやすみにおすすめのほん







『じゃぐちをあけると』 しんぐう すすむ/さく 福音館書店 2009年発行 分類 Eミド



「みず」で あそぶのが たのしいなつです。 みんなの おうちの じゃぐちは こんなかたちかな? くるっとまわす じゃぐちを あけると、「みず」がでます。 でてきた 「みず」を こうすると…。 いろんな 「みず」の ようすが、 ありありと えがかれていて、いろんな 「みず」に であいたくなる えほんです。



『おじいちゃんのくしゃみ』

阿部 結/作 福音館書店 2023年発行 分類 Eアカ

まごむすめが にげちゃうほど、 おおきなくしゃみをする おじいちゃん。 まごむすめは そんなおじいちゃんが だいきらい。 でも、 おじいちゃんの くしゃみは、 せかいいち すごいくしゃみなんだって。 どのくらい すごいかは、 えほんで たしかめてみてね!



『あさがお』

あらい ままき ぶん え きん ほししゃ ねんはっこう ぶんるい 荒井 真紀/文・絵 金の星社 2011年発行 分類 Eミド

あさがおのはなが さくきせつに なりました。 きんじょで よくみる あさがおのはな。 あさがおが、 たねから どうやって そだっていくかを しゃしんのような くわしいえで わかりやすくおしえて くれます。

そとがわからは わからない、 たねのなかも みられますよ!

しょうがく ねんせい 小学1, 2年生むけ



『かみなり』

たけだ やすま かんしゅう しゃしん こすぎ こうせい ぶん 武田 康男/監修・写真 小杉 みのり/構成・文 はかさきしょてん ねんはっこう ぶんるい 岩崎書店 2022年発行 分類 Eミド

夏は一番かみなりが多い季節です。夏のむしあつい日、にゅうどう 雲が空高くせいちょうして、さらに大きくなると、かみなり雲になります。その、かみなり雲の中で生まれる電気が、かみなりです。どんなしくみで、電気ができるのでしょうか?

いろいろな雲やかみなりの写真がたくさんのっている美しい 写真絵本です。本のさいごに、さらにくわしいお話があるので、ぜ ひ読んでみてください。



『おてがみほしいぞ』

こうまる みづほ/作 丸山 誠司/絵 あかね書房 2022年発行 分類 913

ある日、オオカミのギロンは、ゆうびんやのヤギが手紙を配っている様子を見ていました。手紙をもらったどうぶつたちはみんなうれしそうにしています。 ギロンもすっかり手紙がほしくなってしまいました。ギロンは、一度も手紙をもらったこともなく、だれかに手紙をかいたこともありませんでした。

どうやったら手紙がもらえるのか、いっしょうけんめいかんがえているギロンをおうえんしたくなる楽しいお話です。きっとあなたも、だれかに手紙をかいてみたくなりますよ。



『ものぐさトミー』

ペーン デュボア/文・絵 松岡 享子/訳 はいなみしょてん 岩波書店 1977年発行 分類 933デ

きょうは何もしたくないなぁという時はありませんか? めんどうくさがり屋の男の子、トミー・ナマケンボは、電気じかけの家に住んでいます。この家では、お風呂から歯みがき、着がえ、ご飯を食べることまで、すべて機械がじどうでやってくれるのです。ある日、電気が止まってしまい、機械が動かなくなってしまいました。一週間後、機械は動きだしますが、今までのようにうまくいきませんでした・・・。トミーはいったいどうするのでしょうか?

しょうがく ねんせい 小学3, 4年生むけ



『せんそうがおわるまで、あと 2分』

ジャック ゴールドスティン/作 長友 恵子/訳 合同出版 2023年発行 分類 E ミデ

間じ日に同じ町で、ジムはジュールより 2分早く生まれました。ジムはいつも先頭をいき、ジュールはいつも 2分遅れてついていきます。ふたりはとてもなかよしで、大切な友だちどうしでした。

やがて戦争がはじまり、ふたりとも戦場に送られます。戦争は記まみれでみじめなものでした。戦地でもジムはジュールよりいつも先をいきますが、ふたりは支え合ってすごします。

タイトルの『せんそうがおわるまで、あと 2分』の時に何が起きたのか?戦争がどんなに意味のないことかが静かに伝わってきます。やさしい絵と言葉が、深く心に残る本です。



『へそ茶の自由研究』

「ばかばかしい」という意味で使われる「へそ茶をわかす」ということ わざがありますが、本当にへそでお茶をわかせると思いますか?

主人公のあたるは、4月に転校してきた友だちのそうまといっしょに 重んとうに 「へそ茶をわかす」ことができるかどうかを、夏休みの自由研究 のテーマにすることにしました。自転車をこぐと光るライトや、ふると 明かりがつく懐中電灯。それらをヒントに、おもしろいことを言って笑わせてお腹をぐわんぐわんゆらせば、エネルギーが生まれて、へそでお湯をわかせるかもしれないと考えます。研究結果はどうなったのか? そうまとの友情にも注目です。



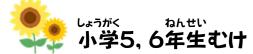
『イマジナリーフレンドと』

ミシェル クエヴァス/作 杉田 七重/訳 小学館 2019年発行 分類 933ク

いつも 妹 のフラーと一緒にいる主人公ジャックは、授業中に手をあげても先生に無視されるし、パパやママにもそっぽを向かれ、ずっと自分はみんなの嫌われ者だと思っていました。

でもある日、自分がフラーの想像から生まれた「イマジナリーフレンド」(= 頭 の中や想像の中にしかいない友だち)であると知り、自分ができなのかわからなくなったジャックは自分探しの旅に出ます…。

ります。 自に見えないものを信じること、心の支えとすることの大切さを教えてくれます。







テレビ番組などで「池の水を全部ぬく」という企画をやっているのを、見かけたことはありませんか?出演者が、池に住む危険な生き物を退治したり、貴重な生き物が見つかったりと、なんだか楽しそうですよね。でもテレビ番組だけでは知ることができない、本当の目的や作業の手順、水をぬいた後のこともふくめて、なぜ人の手で水ぬきをする必要があるのかが、わかりやすく解説されています。見つかった生き物も、イラストで図鑑のようにていねいに紹介されています。

世道な作業の連続に、池の水ぬきのイメージがかわるかもしれません。



『かげふみ』

くつき しょう きく あみなか 朽木 祥/作 網中 いづる/挿画 みつむらとしょしゅっぱん ねんはっこう ぶんるい 光村図書出版 2023年発行 分類 913

夏休みに、一人で広島のおばあちゃんの家に行くことになった5年生の拓海は、家の前にある児童館の図書室で、澄という名前の不思議な女の子と出会います。なぜか澄と会うのは雨の日ばかりで、澄は「影の話の本を探している」と言います。拓海は児童館に来る他の子供達と交流する中で、戦争中に広島に原爆が落ちたことや、ぎせいになった人々のことを知ります。澄の力になるために、拓海は図書室の職員に事情を説明するのですが、その子を見たことはないと言われ…。ちょっと不思議な物語です。



『起業家フェリックスは12歳』
アンドリュー ノリス/著 千葉 茂樹/訳 あすなろ書房 2023年発行 分類 933/

きっかけは、お母さんにプレゼントした手作りのバースデーカードでした。大好評だったので、カードを試しにネットで売り出すことにした12歳のフェリックスは、学校の仲間3人とオンラインショップを立ち上げます。それぞれの得意分野をいかしながらカードを作って売り出すと、爆発的な売れ行きをみせて、なんと税金まで払うことに!!商品開発について、最強のチームの作り方、税金の仕組みなど、わかりやすく楽しみながら、知ることができるこの物語は、ビジネスの入門書のようで、将来役に立つかもしれませんよ!